

第 13 回夏休みエコ絵画コンクール 表彰式特別講演

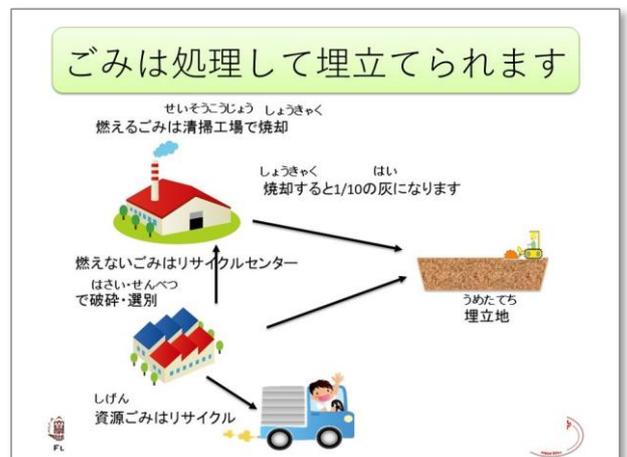
日 時 : 平成 30 年 11 月 24 日 (土)
 会 場 : 千葉市生涯学習センター (千葉市中央区)
 主 催 : 千葉テレビ放送、一般財団法人千葉県環境財団
 講 演 : NPO 法人環境技術支援ネットワーク理事長 樋口壮太郎様
 演 題 : ごみは宝の山

■ 日本は加工貿易の国

私たちは豊かな生活を送ることができています。食べ物やおやつもあるし、家ではテレビも見ることもできます。日本は資源の少ない国ですが、日本の豊かな生活を支えているのは、日本が「加工貿易立国」だからです。加工貿易というのは、資源を世界中から輸入して、製品を輸出する仕組みのことで、それで日本の経済は成り立っています。

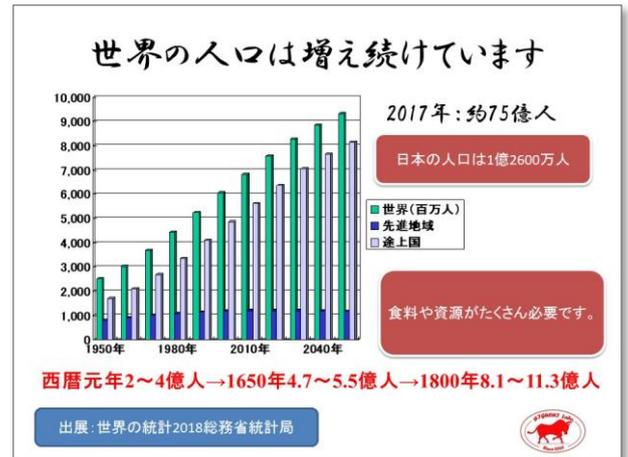


世界中から集めている資源を例にあげると、石油、鉄、アルミなどがあります。それを自動車などの製品にして海外に輸出していますが、資源を製品にするときにごみが発生します。このごみの処理の段階では、焼却をしたり、リサイクルをしたりしますが、ごみの量をできるだけ少なくして、どうしようもなくなったものだけ埋め立て処分が行われています。



世界の人口が増え続けると

世界の人口に目を向けてみましょう。2017年でおく75億人います。日本は1億2千万人ですね。グラフを見てわかるように、地球全体の人口はどんどん増えています。西暦元年ころは2億~4億人だったと言われています。1650年になってもまだ二倍にはなっていません。5億人くらいでしょうか。1800年代になって8~11億人に急に増えました。

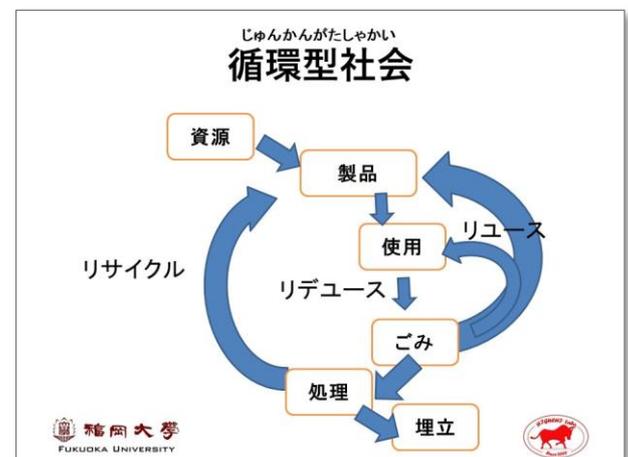


このように人口が増えた理由のひとつは、産業革命により工業製品を大量に作れるようになったこと、また、医療が発達して病気で亡くなる方が少なくなったことです。

私たちがこの地球で生きていくには、たくさんの食料や資源が必要です。まもなく90億人、もしかすると100億人に達するかもしれません。

この人たちがみんなご飯を食べたり、ごみを出し続けると、トータルのごみの量も増え、地球が汚れていきます。

その一方で資源は少なくなっていくます。またごみの埋立地も少なくなっていくます。どうしたらよいのかの答えが「循環型社会」を作るといことです。製品を作るには資源を使わざるをえませんが、製品を長持ちさせることや、資源に戻していくような取り組みをすることで資源を節約することができます。

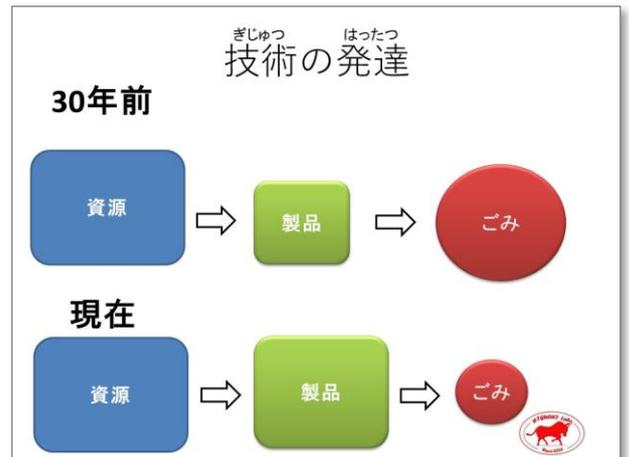


技術の発達

30年前はたくさんの資源を使って製品をつくっていましたが残りの資源はごみになっていました。技術の発達により、現在では少しの資源を使って製品をつくることができるようになり、ごみの量は最小限になりました。

資源を節約するために、研究を重ね、技術を編み出し、たくさん製品を作ってもごみを少なくできるような取り組みが世界中で行なわれています。

30年前と今の技術は全然違いますので、昔のごみの埋め立て地は資源でいっぱいかもしれません。そのごみの中には、現在の技術を使えばリサイクルできる資源がたくさんあると考えられています。日本は世界中から資源を集めてきた国なので、資源とゴミが一緒になって埋立地に埋まっています。もしかしたら日本は資源の大国かもしれません。



都市鉱山のはなし

埋まっているゴミを資源に戻そうとする考え方を語る時、私たちは「都市鉱山」ということばを使っています。もともとの資源は山を掘ってそこから資源を開発してきたのですが、今は埋立地に使えるような資源があふれています。特に日本は注目されています。

日本の埋立地には、鉄は12億t、アルミ6,000万t、金6,800tが含まれていると予想されています。金については、今度の東京オリンピックで使う金メダルは、都市鉱山から作ろうとしています。また、もし世界中の資源がなくなったとき、日本の都市鉱山で約2年間は世界を賄えると考えられているくらいです。

いかがでしたでしょうか。ごみは宝物だと思いませんか。

ごみとは何か。いらぬものですね。私はいらぬ
 いから捨てる。しかし別の人からするとまだ使える
 から有用です。価値が残っているものゆうようのかちことを
 有価物ゆうかぶつといいます。このように、ごみは、みらい未来の資
 源と考えられます。



■ わたしたちにできること

これからは、私たちは、なるべくゴミの出ないよ
 うな生活さいりようをし、再利用して物を大切に使い、リサイ
 クルして資源に戻していきたくたいです。これを
 スリーアールスリーアール 3 R 運動けいぞくといい、継続することで循環型社会を
 作ることができます。



しゅうり修理しながら長く使うことも大切です。

また不要ふようなものはなるべく買わないようにしたいです。いま本当に必要かどうか、買う前にも
 う一度考えてみましょう。

お店によれば、安いものがたくさん溢あふれていますが、価格が安いと、環境かんきょうに優しくすること
 が後回しあとまわになっていることが考えられます。価格が高いけれども、環境かんきょうにやさしいものを日常
 生活せいかつの中で選ぶことは、私たちができることではないでしょうか。

みなさんは学校で環境についての授業を受けているので、ごみの量を最小限にできる大人に
 なるにちがいありません。きれいな地球を作ってくれと信じています。

むしろ勉強べんきょうしなくてはいけないのは大人の人たちです。私は北九州でエコスクールという活動
 を通して大人に教育かんきょうきょういくをしています。どうかみなさんは、環境教育を受けていない大人がいたら
 ぜひ教えてもらいたいと思います。

おしまいに

循環型社会を作ってごみゼロ社会を作ってほしい。ゴミをゼロにすることはできなくても、なるべくゴミをゼロに近づける努力をしてほしい。資源を守る活動をする^{ちきゅうおんだんか}と、地球温暖化^{もんだい}という問題も解決することにつながります。



これで私の話は終わりますが、次に「未来のごみ箱」^かを描くときに、今日の話を出していただきたいと思います。ありがとうございました。